

金沢大学 資料館だより

第34号

「彰^{SHOU}往^{OU}察^{SATSU}来^{RAI}」を回顧する - 2009年特別展レポート -

2009(平成21)年10月15日午前10時。資料館最大のイベント＝特別展が静かに幕を開けました。「彰往察来—20年目の角間キャンパスから城内を想う—」。金沢大学が丸の内(城内)キャンパスで過ごした日々を写真で振り返ったこの企画、来場者は角間キャンパスの本会場だけで1082人を数え、昨年を上回りました。約1カ月の開催期間に「開館以来初」の試みを幾つも盛り込み、少々欲張った内容を振り返ります。

初・その一 金沢城公園に第2会場

現、金沢城公園。金沢大学のかつての本拠ではありますが、大学の校舎類は既に取り壊されて久しく、往時の様子は思い出話に残るのみ。現在は、広々とした芝生の広場、市街を眼下に納める高台、鬱蒼たる木々の間を抜ける小道、などなど、変化に富んだ地形の散策を楽しめる憩いの場となっています。

今年の特別展は、この魅力的な公園の一角、鶴の丸にあるミニギャラリーに出張しました。展示の出張は2006(平成18)年に第四高等学校をテーマにした「学都金沢と第四高等学校の軌跡」展の際に近代文学館(当時)と連携した時以来、金沢城公園での開催は、資料館始まって以来、初めての試みです。ホームカミングデイと連携し、卒業生に一番懐かしい場所で思い出にひたっていただくため、そして、金沢城公園を訪れる多くの方に、そこに大学があった当時の姿を知っていただくための企画でした。タイトルは、「写真展 よみがえる城内キャンパス」。城内キャンパスの風景や、そこでの学生生活を活写する写真パネル約30枚を、館蔵品から厳選して展示しました。

10月28日(水)から11月12日(木)までの短期間の展示でしたが、設置した芳名帳には、国内外から来場された多くの方の名前がペンのインクが無くなるまで記されていました。



▲ ギャラリー外観



▲ 展示の様子

CONTENTS

- 2 2009年特別展・本会場の声—アンケートより—
歴史資料活用プラットフォーム「KuKuRI」稼働
- 3 2009年特別展・ホームカミングデイとの連携レポート
ヴァーチャルミュージアム構想始動
2009年特別講演会レポート
- 4 資料館からのお知らせ(展示予告 etc.)

「写真展」と銘打った第2会場はもとより、本会場である角間キャンパスの資料館展示室でも数々の写真パネルが主役をはった今回の特別展。模型や実験器具、記念品など、3次元の品物が展示品の中の少数派なのは、過去の展示と比べて、それこそ少数派かもしれません。それが、どう受け止められたのか。本会場への来館者のうち、約5%の方が答えてくださったアンケートをもとにご報告します。

Q1 来館のきっかけは？

1. 展示に興味があった……39% (27人)
2. 大学の歴史に興味があった……23% (16人)
3. 授業……20% (14人)

Q2 展示はいかがでしたか？

1. 面白い……57% (29人)
2. とても面白い……37% (19人)
3. 面白くない……2% (1人)

展示に関心をもって来館し、内容に満足して下さった方が多い、という、なんとも頬が緩んでしまう評価をいただきました。

Q3 特に興味をひかれた展示品は？

(回答者37人、複数回答あり)

1. 城内キャンパスに関する写真……35% (13人)
2. 角間キャンパスに関する模型……10% (4人)
- 金沢大学設立に関する資料……10% (4人)

モノトーンの画面に留め置かれたキャンパスの風景や学生生活の一コマに、郷愁をそそられた「城内」卒業生は多かったようです。中でも、喫茶店「ル・シャトウ」は格別だったようで、これを名指しにした「20数年前の記憶が一気に甦りました」という声も。

ちなみに、城内を知る金沢大学教職員(OB・OG含む)には、移転への思い入れの強い人が多いようです。聞き取り調査をする、昨日のことのように当時の事情を教えてくださいました。



初・その二 資料館展示室にてKuKuRI稼働！

2次元の展示品が多いこの特別展の中でも別格だったのが、歴史資料活用プラットフォーム「KuKuRIくくり」でしょう。タッチパネルを利用した文書資料の展示で好評を博しました。歴史資料の先端的活用を目指して、歴史・情報システム・観光情報 etc. 様々な分野の研究者や企業が集った「あまね遍プロジェクト」がこのシステムを開発しました。遍プロジェクト代表であり、KuKuRI開発者の一人でもある北陸先端科学技術大学院大学の堀井洋先生の解説です。

博物館や資料館でガラスケースの中に展示されている古文書の「次のページ」、古い陶磁器の「うらの面」、一部分を開いてある巻物の「先頭の部分」、みなさんはこれらを「見たい!!」と思ったことはありませんか？ 確かに目の前に現物資料があるのにも関わらず、自由に見られない・さわれない焦れっさは、「ゲームセンターのクレーンゲーム」や「コルク栓が中に落ちってしまったワインの瓶」にも通じるものがあります。

平成21年度金沢大学資料館特別展「彰しょう往おう察さつ来らい—20年目の角間キャンパスから城内を想う—」において実証実験が行われた歴史資料活用プラットフォームKuKuRIは、利用者が抱くこの「焦れっさ」を解消するために、遍プロジェクトが開発した

Q4 展示についての感想を教えてください。

(記入して下さいのままの表現でお送りします)

- ★金大の歴史を見てよかった。今後もつづけて下さい。
- ★今後も…常設されたらありがたいです。よろしくお願いします。
- ★とてもなつかしく拝見させていただきました。
- ★自分の通う大学の昔の姿が見れて楽しかったです。
- ★自分が学んだ城内キャンパスを見て懐かしさでいっぱい。合唱団に属してたので流れていた校歌を思わず口ずさみました。祖父母の代からの金大卒業生なので亡くなった祖父母にも見せたかった…。
- ★これからもいろいろ展示してほしい。
- ★金大の昔を知れてうれしかった。金大に誇りを持てた。

お気に召して下さいの方、本当にありがとうございます。一言で展示の苦勞も全て報われる思いです。そして…

- ★案内のしかたに工夫が必要かも。私の同期でもこの企画そのものを知った人は少ないようです。最後の日にまいりましたが…。
- ★もっと大きくセンデンすると良い。おもしろいから。

プレスリリースや館公式サイトでの告知、ポスターの掲示などで広報しましたが、まだまだ工夫の余地があることがわかりました。「知っていれば見に来たのに…」と、がっかりなさる方が出ないよう、改善していきたいと思えます。



KuKuRIを使う来館者と、解説する担当者

デジタル展示システムです。現物資料の展示・閲覧に際しては資料の保存管理上、様々な制約が存在します。KuKuRIでは、デジタル展示という仮想の展示環境を作ることで、展示資料の全体(全ページ)展示や注釈・解説の書き込みなどを自由に、かつ展示資料にダメージを与えることなく行うことができます。展示資料が持つ魅力を利用者に対してより分かり易く伝えるKuKuRI—このシステムを活用したデジタル展示が一般的になる日も、そう遠くないかも知れません。

* 「遍プロジェクト」公式サイト

URL <http://amane-project.jp/main/>

初・その三 ホームカミングデイ会場にてグッズ販売！

2009(平成21)年10月31日。晴れ渡った秋空の下、約250名の卒業生や家族をお迎えして第3回ホームカミングデイが開催されました。角間キャンパスでの式典や交流会の他に、今年は各キャンパスと金沢城の見学ツアーが組まれ、よりフランクに学生時代の思い出に浸っていただく趣向。

資料館も、そこに一役買いました。

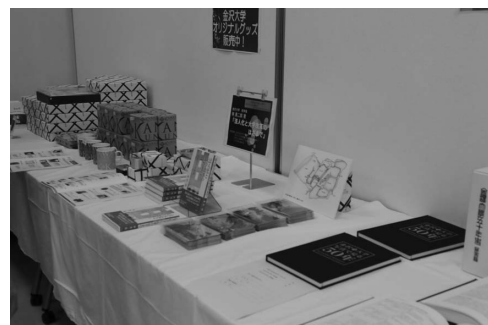
まず、おりしも特別展開催中の角間キャンパス附属図書館内の展示室は、休日返上で開館。その甲斐あって、たくさんの方が足を運んで下さいました。写真や模型を指差しながら思い出話に花を咲かせるにぎやかな同級生グループ、穏やかな眼差しを交わしながらゆったりと室内を回るご夫婦。BGMの校歌に顔をほころばせ、「この写真は僕らがいた時のだ!」と弾んだ声を響かせる方も。

さらに、金沢城公園の第2会場では、館長が参加者をお迎えして展示パネルの解説を行いました。参加者はセピア色の写真や覚えのあるエピソードに、時に頷きながら、学生時代を懐かしんでいるようでした。

さらにさらに、この機会に展示した写真の一部をデザインしたポストカード4種の制作を企画しました。関係者の頭に長年浮かんで消えた「資料館特別展グッズ」の登場です。とはいえ、資料館ではお金は扱えません。金沢大学生協の製品としてホームカミングデイ会場で販売したところ、30枚以上をお買い上げいただきました。中には数枚まとめ買いなさる方もいたとのこと。城内キャンパスへの卒業生の思い入れを見たように思います。



▲ 懐かしの校舎は？ 坂は？



◀ ポストカードはこんな風に
売られました

資料館ヴァーチャルミュージアム構想始動

金沢大学資料館には、1989(平成元)年の創設以来集積した貴重な学術標本約2万点が所蔵されています。旧加賀藩領で記された古文書群、旧制第四高等学校で使われていた物理実験機器、戦前の金沢の様子を伝える大量の古写真など、学術研究資料として、更には本地域の歴史的・精神的アイデンティティを主張する地域情報資源として、本資料館所蔵コレクションが有する価値と意義を疑う余地はありません。しかしながら、これら所蔵コレクションの展示環境とこれらを活用した学術情報の発信については、十分であるとは言えませんでした。

そこで、今年度から金沢大学・北陸先端科学技術大学院大学・遍プロジェクトを中心にスタートした「ヴァーチャルミュージアム構想」では、新しい試みの1つとして、情報通信技術を活用した所蔵コレクション情報のデジタル化とインターネットを介した全世界への公開・発信に取り組みます。世界中の人々に所蔵コレクションの素晴らしさをアピールすることは、創基150年となる金沢大学の社会的責任を果たすと共に、地域社会振興にも資することに繋がると信じております。

ゆっくりと、しかし、着実に動き始めた「ヴァーチャルミュージアム構想」のこれからの、ぜひご期待ください。

自校教育の大切さーアイデンティティの源を伝えようー

2009年特別講演会レポート

2009年11月5日、今年度の特別講演会として「アーカイブズと自校教育」を行いました。今回は3年後の創基150年を見据えて創基150年記念事業準備委員会とタイアップした、金沢大学創基150年記念「講演会・シンポジウム」シリーズの第1回でもあります。

講師には大学史の大家として著名な寺崎昌男東京大学名誉教授をお招きして、自校教育の役割と大学の歴史について、興味深いお話を伺いました。大学の歩んだ歴史を知ることによって学生は安心し、そこに属する自分を確信してアイデンティティを持ち、学校への愛着を抱く――。

会場となった附属図書館AVホールには50人余りの教職員や学生が集まり、寺崎先生の巧みな話術に時折笑い声も立てながら、講演に聞き入っていました。

詳しい内容が気になる方は、ぜひ年度末発行の「金沢大学資料館紀要第5号」をご覧ください。講演録全文を収録しています。



平成22年度新歓展 金沢大学資料館へようこそ



資料館紀要第五号 ついに刊行

本年3月、金沢大学資料館紀要第5号を刊行します。四高物理機器についての論文を始め、昨年11月に行われた寺崎昌男先生の講演録や各種研究ノートなど、内容は多彩。当館HPの「刊行物紹介」コーナーに全文を掲載します。

ご用とお急ぎでない方は、是非ご覧ください。

刊行物紹介コーナー

<http://muse.w3.kanazawa-u.ac.jp/publication.html>

平成22年度新歓展
WELCOME TO THE MUSEUM 金沢大学



資料館へようこそ

4/1(Thu)~9/30(Thu)
10:00~16:00 (土・日・祝日 閉館)
tel (076)264-5215
museum@adm.kanazawa-u.ac.jp
<http://muse.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

「金沢大学は、2012年に創基150年を迎えます」。

このフレーズ、金沢大学関係者は、きつとどこかで耳にしたことがあるでしょう。では、そのカウントはいつから始めたのか、ご存知ですか？ 「基」となった組織の名前は？ 性格は？ いつから「金沢大学」になったのでしょうか？ 150年間、大学が辿ってきた道筋は？

そんな疑問を解決する「金沢大学史概説」は、資料館展示室でご確認を。「新歓」と銘打ってはいますが、新入生に限らず多くの方のご来場をお待ちしております。

2010.4.1~2010.9.30 10:00~16:00

(土日祝日と大学の休業日は休館です)

現在開催中

企画展

つくる

—Fine Arts in Kanazawa University Museum—

「資料館」という言葉から、何を連想しますか？ 古文書？ 古写真？ 埃をかぶった古道具？

—はい、そのとおり。

大学やそこに集った人々——「金沢大学」の元になった各種学校まで含めて——にまつわる品々を収集・整理・保管するのが役目です。

でも、その「品々」には、こんなものも、あるんですよ。

2009.12.1~2010.3.10

土・日・祝・大学休業日は休館

10:00~16:00(入場15:30まで)

入場無料

展示品：高光一也「日比野信一教授肖像」
北浜淳「パンテオンの見える風景」
遠田道夫「風景」
郡司和男「墮天使」など

金沢大学資料館企画展



展示室、貸します

中央図書館奥の資料館展示室は、当館の展示予定とバッティングしない限りにおいて、学内の研究室や団体にお貸しすることができます。

四高の物理棚や、明倫堂・経武館の扁額が見守る落ち着いた雰囲気なかで、研究成果を、作品を、プロジェクトを、公開してみませんか？

使用期間は、資料館の展示企画と重ならない時期で、ご相談に応じます。

詳細はお気軽にお問い合わせください！

お問い合わせはこちらへ

平日 9:00~17:00

内線 5215(資料館事務室)

現在進行中！

金沢大学史アーカイブ整備プロジェクト

「アーカイブ」、「公文書」、「公文書保管庫」といった意味を持つこの言葉を冠して、今年度から一大プロジェクトが始まりました。大学で生成される文書を適正に収集・選別し、保管することが目的です。展示や講演会などのイベントと比べると一見地味ですが、大学の歴史を語り継ぐためになくてはならない仕事です。にもかかわらず、これまでは滞りがちな仕事でもありました。

今回、この事業では関係各所の負担をより軽減する見地から旧来の収集方式を改善し、旧方式の機能不全によって滞留した作業のいくばくかを取り戻しました。着手初年として、着実な一歩を踏み出せたと考えています。受入れた文書類の一覧は、当館公式ホームページ(学内限定)を利用して学内にお知らせしています。

編集後記

昨年8月に前号を刊行してから約半年が経ちました。こうして文章にまとめると、なんと盛り沢山な半年なことか！ アーカイブ整備担当という立場で1人増えたとはいえ、非常勤職員3人+兼任の館長という脆弱極まりない組織でよくもまあ……と、天を仰ぎました。3次元の物品や模型の類を扱う博物館と、文書の管理をつかさどる文書館。複合館の性格を持つこの組織の在り方を再検討する、曲がり角のように感ぜられます。

さて、今号の刊行にあたっては、北陸先端科学技術大学院大学の堀井洋助教に、KuKuRiおよびヴァーチャルミュージアム構想の紹介文をご執筆いただきました。急なお願いにも関わらず、多忙なスケジュールの隙間を縫って筆を執ってくださったこと、ここに記してお礼申し上げます。

(丸本)

第34号 資料館


編集・発行 金沢大学資料館

〒920-1192 金沢市角間町

Tel : 076(264)5215 / Fax : 076(234)4050

Mail : museum@adm.kanazawa-u.ac.jp

HP : <http://muse.w3.kanazawa-u.ac.jp>



2010年3月31日発行